

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400047		
法人名	社会福祉法人 青山里会		
事業所名	グループホームあおぞら 太陽ユニット		
所在地	三重県亀山市羽若町字西野834-41		
自己評価作成日	平成29年8月15日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigvoNoCd=2490400047-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成	29年	9月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の方が季節を感じてもらえるよう亀山市内の花見に出掛けたりご利用者の希望で買い物に出掛けたり、足湯・カラオケ・ドライブに行き、気分転換を図っている。地域での催し物に積極的に参加させて頂き地域の方々とも交流をもっている。ご利用者の希望にも出来る範囲で対応し、お一人お一人の思いに添ったケアを行えるよう取り組みご利用者の笑顔が引き出せるよう心がけているご家族とも密に連絡をとり、報告・相談を行い協力を得てよりよい生活が送れるよう取り組んでいる。また、グループホームあおぞらは立地条件に恵まれており、市の総合福祉センター「あいあい」や地域のコミュニティーが近くにあり、足湯・カラオケ・将棋など、日常的に外出する事が出来、地域の方々との交流を図る事が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は、高齢者・障害者がいつでも必要なサービスが受けられるネットワーク作りを推進して誰でもが安心して暮らせる町づくりをめざしている。法人の理念に加え、2つのユニットが職員で考えた個々の理念を掲げ、管理者の熱意と指導の下理念の共有に努め、関係者間のコミュニケーションを大切に、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりのやれる事、やりたい事を探しながら個々の生活を重視した暮らしを支援している。日頃から利用者の話に耳を傾け、地域の季節行事に参加支援で地域交流もしている。利用者、職員共に和やかな雰囲気の中で楽しく過ごしている様子が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	青山里会のケアワーカーの理念と太陽ユニットの理念を目的付きやすいリビングに提示し、理念に基づきケアにあたるように努めている。	2つのユニットが個々の理念をリビングに掲げ、全職員がカンファレンスで話し合い理念を共有している。職員が利用者に常に話しかけコミュニケーションを取り、折り紙細工やレクリエーションを通じて笑顔を引き出す様な支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出支援を行い、馴染みのあるスーパーへ買い物に行ったり、地域のあいあい祭りや夏祭りに参加させて頂くよう努力している。	地区開催の盆踊りに参加したり、サックス演奏・フラダンスの地域のボランティアの訪問で利用者に笑顔が見られる。また、同地区の幼稚園との交流や近隣住民に、敷地内の草取りや畑作りを手伝ってもらったりして、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ地域貢献出来ていないが同法人の亀山老健で定期的に開催している亀山学校で今後認知症をテーマにした勉強会を開催するなどして地域の方々に発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回奇数月の第3金曜日に運営推進会議を開催しており自治会長様や市の高齢障害支援室の方、ご家族様の意見や要望を伺いながらサービス向上に努めている。	地域包括支援センター・在宅支援センター・自治会長・家族が出席し、定期的に年6回開催されている。事業所の行事・活動・事故報告とともに、参加者から意見・質問等が出て積極的な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご出席いただいた時にご意見や助言を頂戴したり亀山地域密着型サービス事業所連絡会に出席した際に当事業所の実情も伝えている。	事故報告等について広域連合に書類や電話で相談している。介護保険制度上の事、認定更新の事等、積極的に相談出来る関係である。亀山地域密着型サービス事業所連絡会の事例検討会に参加し連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような事が身体拘束になるのかを職員間で話し合い確認しながら拘束しないケアを行っている。玄関の施錠については解錠時間を長くするように努めている。	「身体拘束ゼロの手引き」とグループホーム独自の写真入りマニュアルを作成し、利用者の行動を制限するのではなく、安全に配慮しつつ自由な生活が出来る様にさりげなく見守りを徹底するなど工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	亀山市の虐待防止マニュアルに沿って施設・事業所の虐待に関する取り組みについて職員間で話し合い周知するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度については勉強会・研修会等で学ぶ機会がもてるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者及びケアマネ・サービス計画作成者がご理解出来るようわかりやすく説明を行い疑問にお応えし、理解頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、意見箱を設置し意見を頂き運営に反映できるよう努めている。	面会時や運営推進会議で要望を聞いている。「フォットフレーム」の要望が家族から出たが使いこなしが出来ず課題が残ったが、「体操をやってほしい」との意見で毎日体操を実施する事で、利用者に笑顔や活気が出た。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティングで適時相談や提案を行い良い運営が出来るよう努めている。	管理者やリーダーは、気軽に話し合える雰囲気があり、朝の申し送り時に要望や意見を言える機会がある。利用者の外出支援内容や介護内容等、出された意見は「利用者・職員連絡ノート」に記入し、ミーティングで話し合い支援に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、相談や提案を行い職場環境が良好になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は法人の新人研修終了後グループホームでも先輩スタッフが必ず一緒について具体的なケアの方法を指導するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会に参加する中で勉強会を通じた事例検討会や意見交換、より良いケア方法などを考える取り組みに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前訪問調査を行い、本人の困っている事、思いや要望などをお聞きし、安心してサービスをご利用頂けるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問調査でご家族が抱えている困りごとや現状をお聞きし、不安な事や要望に耳を傾け質問等にお応えしながら安心してサービスをご利用頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や置かれている生活環境を把握し、グループホームだけではなく色々なサービス利用の紹介や選択があることをお伝えするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いに寄り添い、じっくり向き合いながら個々に応じた生活支援や関係性を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への連絡を密にしながら家族の思いも傾聴し共に本人を支えて行く関係を築けるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば、馴染みの場所へ行きカラオケや足湯に参加できるよう外出支援に努めている。	個々の希望を本人や家族に聞き、墓参りやお正月には自宅に行く利用者もいる。また、馴染みの店に買い物に出かけ知人に会い喜ばれた利用者もいる。利用者の家族や知人の訪問を継続してもらう為に、再訪を言葉で依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が楽しんで頂けるよう行事やレクを考えたり、ご利用者同士の会話の橋渡しをし、ご利用者同士の良好な関係を保って頂けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者が他施設に入所された際は様子を伺いに行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者お一人ひとりの思いや希望を日々の会話やご家族の情報等から把握するように努めている。外出希望がある方には出来る限り対応出来るよう業務内容を工夫し対応出来るよう努めている。	職員は利用者寄り添い、会話や表情・行動から思いや意向を把握している。把握が困難な場合はカンファレンスで職員間で話し合い、利用者の視点で物事を考えた支援を共有し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査にて在宅での暮らしぶりや生活歴サービス利用状況など出来るだけ把握し入所後もこれまでの暮らしが出来るだけ継続出来るよう馴染みの家具などをお持ち頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、ミーティング、毎日のバイタルチェックを行い状態把握に努めその時の状態にあったケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のご利用者の方の担当を決め1か月ごとに介護計画のモニタリング、3ヶ月毎に担当者を中心にカンファレンスを実施し、介護計画の評価や見直しをしている。	毎月モニタリングを実施し、3ヶ月毎にカンファレンスを開催し、介護支援専門員・職員で話し合い、本人・家族の意見・意向を聞いて見直しを行ない、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやミーティングでご利用者への気付きや変化の情報を共有し対応方法について話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の対応が困難な車イス利用者の方の医療機関への受診の付き添いや個人の買い物や外出などの希望があれば可能な範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回介護相談員が訪問しご利用者の声を聴いていただいたり状態をみて頂いている。運営推進会議には自治会長様にも参加して頂き助言を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の個々のかかりつけ医に定期的に受診して頂いている。ご家族と相談を行いその時の状況に応じて受診を行う医療機関を決めている。必要時職員も付き添い本人の状態を伝えかかりつけ医との関係性を築けるようにしている。	契約時に本人と家族の同意のもと、かかりつけ医は大切だと思主 主治医としている方が半数いる。基本受診は家族送迎であるが必要に応じて職員も行っている。受診後は「個人観察記録」に記入し全職員が共有し、家人には電話連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいない為、病院受診時や往診の際に相談したり電話での相談を行い助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護サマリーを提供しご利用者の状態を報告し再入所時に事前調査に行き状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の思いや意向を状態変化時等で話し合いその意向に添えるように支援している。	重度化した場合事業所で対応できる状態まで支援しているが、その後は病院や介護施設と連携を取って支援している。家族や医療関係者と連携を取りながらチームで支援するには現時点では不安など課題があると職員は考えている。	将来において重度化や終末期の支援は、欠かせないと考えられることから医療機関との連携と、運営者・職員・家族と話し合いの上、事業所としての方針を定められる事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療従事者がいない為緊急の場合に適切な手当てや判断が不十分であり、緊急搬送をしている。地域密着型サービス事業所連絡会で開催された心肺停止時の応急手当の講習会に参加し自分達でも出来る応急手当の方法を学ぶ機会を持てるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の立会いのもと、消防訓練、防災訓練を実施している。職員全員が速やかに対応出来るように定期的に訓練を継続していく。地域との協力体制が図れるよう連携に努めたい。	消防署立ち合いの下、夜間想定した防災訓練をして、夜間2名の職員で通報避難訓練をした。今後に課題も確認する事ができ、地域防災マップを参考に全職員が対応出来る様に訓練を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、常に謙虚な気持ちでプライドを傷つけない言葉かけや対応をするよう心がけている。また、職員同士が気付いた事があれば話し合い注意しあっている。	排泄時や入浴時の衣類交換時の支援は、十分に注意して行う等職員間で認識している。法人主催の研修を受け、言葉使いには特に注意し、話題によっては気分を害さない様に表情や様子に気を付ける事を全職員が共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のさまざまな場面でご利用者一人ひとりの希望が汲み取れるよう傾聴や対話を心がけ自己決定出来るよう言葉かけを行い、自己決定しやすいよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活スタイル、生活習慣を尊重しレクやアクティビティなどの声掛けを行いご利用者の自己決定に委ね参加して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前や外出前にはご本人の好きな服と一緒に選んでもらったりおしゃれや身だしなみを整えてもらえるように声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の食べたい物を聴いて買い物に行き食事を提供している。食事の準備や盛り付け、食器洗いも一緒にしている。	ユニット毎に利用者の好みを聞き入れ(嫌いな物は別の物に変更)献立をたて、職員と一緒に買い物や調理される方もいる。ガーデンパーティ(敬老会)で、特別食にして食事の楽しみを支援している。また、畑で採れた野菜を収穫し料理する楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、摂取量は個人カルテに記入している。入浴後には電解質飲料も飲んでもらったり定期的以外にも水分を摂れるように工夫している。食事摂取量が少なくなってきた方には栄養補助食品や食べれる物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方には声掛けを行い。難しい方には毎食後口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し排泄支援をしている。	利用者の体調を見て水分量・トイレ誘導の時刻等を個々に記録し、排泄パターンを全職員が把握している。声掛けや寄り添ったトイレ誘導する事で、排泄の自立を促しており、リハビリパンツから布パンツになった方も数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通がよくなるような食事や牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全てのご利用者の希通りには実施出来ないが、出来る限り希望に添った対応が出来るようにしている。	毎日の入浴も可で、個々希望の時間に入浴している。午後三時から入浴希望の方は、昼食後から自分で衣類を自室で準備し入浴を楽しみにしている姿が見られる。柚子湯・菖蒲湯で季節感を味わってもらい入浴が楽しい時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態や状況に応じて自室で休んで頂いている。不眠時には傾聴したり寄り添い不安解消に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬の処方箋を添付し、ユニット全職員が薬の内容等について把握するようにしている。また、内服に変更があった際には申し送りやノートで情報を共有し症状に変化がみられた場合はかかりつけ医に連絡・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理・料理の盛り付け・洗濯干し・たたみ・モップかけ等出来る範囲で行っている。咀嚼にあったメニューや誕生日には本人の好きなメニューを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望があれば対応出来るよう業務内容を検討し、支援出来るよう努めている。また、ご家族にも協力を得て外出して頂いている。	利用者個々の希望で、市の福祉センターでのカラオケ・将棋・近くの足湯・藤の花見・東海道ひな祭り見学に出かけている。外出先で小物を売っている出店で、「これいいな、素敵やな」と自分に合わせ笑顔が見られた。	その人らしい暮らしを保ち、意欲や自立を保つ為にも事業所の中だけで過ごさず、外出の機会が大切である。事業所の玄関先の広場での外気浴等、日常的に外出の機会を多く持たれる事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より預かり金を預かり、外出時や買い物、病院受診等で使用してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をして欲しいと言われた時は職員が電話をし本人と直接電話でのやりとりをもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは手狭ではあるが、ソファを置いたり季節を感じてもらえるような飾り付けと一緒に作成し居心地よく過ごしてもらえるよう工夫している。	利用者の行動と居室やトイレの入り口が厨房から一望できる。居間兼食堂は天井が高く、自然の光が入り明るい。廊下にはソファが置かれ利用者の休憩場所になっており、居心地良く工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあったご利用者同士でゆっくりすごせるようテーブルやソファの配置を考慮したりしてご自分の居場所で安心して過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していた馴染みの家具・ご家族の写真・テレビ・テーブル・イス等お持ち頂き出来るだけ在宅での生活に近い環境作りをし、ご本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	自宅で使用していた家具が置かれ、家族写真が飾られ個性的な居室となっている。馴染みの家具を置くことで自宅に近い環境を作り、利用者が安心して過ごせる様に工夫されている。全居室からは、畑や草花がある庭を眺める事ができゆったり出来る工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場や自室がわからない方にはわかりやすい表示をして自立支援を行っている。		